

まなびの広場
稲進会
教室通信**彩色** **いろ** **いろ**

アウトプットとインプット

アウトプットとは、自分の考えを形や文章にして表現することです。ブロックで何かを製作する、まさにアウトプットです。音楽であれば作詞作曲がアウトプットに該当します。

反対のインプットとは、既に解明されている事実を理解したり、記憶したりすることですね。一般に高校までの勉強(英語、数学、理科、社会、国語)のほとんどはインプットであると言えます。

子どもたちの中には、アウトプットすることが好きな子がいます。ブロック教室に通っている生徒はブロックを使ってアウトプットすることを楽しんでます。他にもマンガ専用、物語専用ノートなどを持ち歩き、暇があれば自作のマンガや物語を作っているような子もいます。

残念なことにアウトプットすることが好きな子も、年齢が上がってくるに連れアウトプットしなくなってしまうのです。要因は2つあります。1つ目は、こんなことを書いたら変とか恥ずかしいという気持ちが生じてくるからです。もう1つは、インプットする方が大切だと周りが思っているからです。現在の子どもを取り巻く環境においては、インプットに評価の基準の多くが置かれています。学校の成績も、図工や音楽よりも算数や国語に目が向きがちです。

しかし、学校の枠組みを卒業し社会に出れば、アウトプットする力が問われるようになります。知識をたくさん持っているだけの人よりも、持っている知識で何かをうみだせる人に活躍の場は広がります。

また、受験勉強と言ったインプットする力が問われる場面でも、実はアウトプットする力が高い人の方が良い成果を出すケースが多いようです。たしかに、物事を理解したり、覚えたり、計算したりという作業においてはアウトプットなんて関係ないと思えます。ですが、想像してみてください、作文を個性溢れた内容でスラスラとしかも明解でわかりやすく書ける子がいたとします。この子の国語の成績が悪いとは想像できません。

文章を「読む」より文章を「書く」方が大変です。何かを作り出すことは大きな労力を必要とします。私は脳の専門家ではないので詳しいことはわかりませんが、アウトプットはインプットより脳を働かせており、アウトプットすればするほど脳が鍛えられているように思えます。

ですから、学年が上がり勉強の質も量も問われるようになった時、大人がマンガをノートに書いている子どもを見て言う言葉「そんなことばかりしないで、勉強なさい」は、実は逆を言っているのかもしれない。質や量が問われるようになったからこそ、アウトプットで脳を鍛えなければならないとも言えるのです。小学校に上がるから、急に読み書き計算をきちんとさせておかないと、とすることでインプット作業ばかりを行わせ子どもからアウトプットの習慣を奪ってしまうようなことはもったいないです。年齢に関係なく、子どもたちのアウトプットする行動を認め、続けさせてあげてほしいと思ってしまう。

奥松

教室の風景

月を見上げて

私は、夜になると必ず月を見上げます。月を見ると無限に広がる宇宙を身近に感じることができるからです。いつも仕事や生活などで感じる空間は、この宇宙から比べると、とても狭い範囲です。すると、何だか自分が出来ることも狭くなっていくような気がしてくるのです。

しかし、月を見るだけで、私の感じた空間は 38 万 km くらい広がります。その先の星々のことを考えると何百光年、何千光年と無限に広がっていきます。そうして、今度は自分自身の中の小宇宙も感じることができ、無限に広がる宇宙の中で、この自分にも無限に出来る事があるような気がしてきます。

宙に無限の可能性があると、私にも、そしてあなたにも、無限の可能性がある。月を見上げると、そう考えずにはられません。



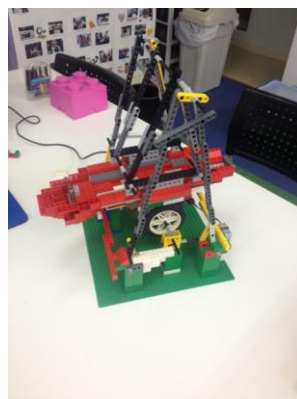
インストラクター 伊勢豊

今月の作品紹介



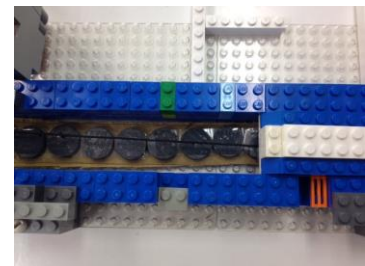
“ネコ型ロボット”

日本一有名なロボットの初期段階の姿だそうです。ホンワカ感溢れる作品ですね。



“バイキング”

下に見えるタイヤの回転で動かしています。角度をつけるために船底を曲線にしています。



“リニアモーターカー”

東京～大阪間を磁石で動くようになっています。本物のリニアモーターカーに負けないスピード感で走行します。